

議会だより

News Letter From Hachijo Town Assembly

 八丈町

No.196

2020.11.25 発行

議会だよりは八丈町のホームページでもご覧いただけます
<http://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/gikaidayori.html>

文化フェスティバルのフィナーレ
(2020年1月)



島内の文化芸能活動を支援

八丈島文化協会



あびの実公演・ヘンゼルとグレーテル
(2019年10月)

八丈島文化協会は、島内の文化芸能団体が参集し2012年10月10日に設立。町の助成も受けながら文化フェスティバル、あびの実、芸能文化祭、JAZZ フェスティバル、島民大学講座、小島自然体験などへ活動を広げ、島内の文化芸能団体への支援や島外からの文化芸能イベント実施などにも協力しています。今回の表紙のご紹介は、同協会事務局長の林薫氏にご協力いただきました。
(宮崎陽子)

CONTENTS

町のコロナ支援策 第2弾！

- 2P 第3回定例会
- 3P 一般質問
- 8P コロナ関連 集中審議など
- 9P 議員定数 議論始まる
- 10P コロナ関連意見書など
- 11P 島内見学レポート
- 12P 町民の声



芸能文化祭フィナーレ (2018年11月)

第3回定例会

令和2年9月4、7日

国の交付金活用 補正予算可決 町独自のコロナ支援策第2弾！

8月26日に開催された八丈町議会全員協議会では、以下の2点について町からの説明があり、協議しました。

1. 病院の時間外選定療養費

平日の8時30分から17時15分以外の受診は、緊急の受診の必要性が認められない場合、診療費とは別に「時間外選定療養費5500円（税込）」の負担になります。

2. 新型コロナウイルス関係での、国・都からの交付金活用支援策

水道料金は引き続き9～11月請求分の3カ月間を無料とするために6000万円の予算が計上されました。他に新型コロナウイルス感染症予防対策に1050万円、防止対策に3500万円の支援金や補助金を充て、宿泊業の支援に1億円、貸切バス使用料が3割補助から8割補助になり1200万円、またスポーツ合宿の支援に390万円を計上するという説明がありました。

終了後、議員定数の削減についての勉強会が行われ、定数を減らす方向で意見は一致しているものの、適正な人数や条例改正の時期などで意見が

交わされました。

9月4日～7日の令和2年第三回議会定例会は、議場における感染症予防対策として全員マスクを着用し、机上にアクリル板が設置され、登壇者のマスクの着脱はどちらでも良しとされました。もちろん窓は換気の意味で開けています。

一般質問の後、8月26日の全協で説明があった交付金活用などの補正予算を含め令和2年度補正予算について承認し、またこの中で新型コロナウイルスに関連する集中質疑が行われました。さらに各契約についての質疑に続き、平成31年度水道事業会計・一般旅客自動車運送事業会計・病院事業会計の決算が認定されました。監査委員の審査意見書では「この公営企業三会計ともに厳しい状況で、より一層経営の健全化に努められたい。」との意見がありました。

最後に「新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書」（→10ページ）が発議され、議決されました。（山下則子）

主な議決事項

9月定例会

令和2年9月4、7日開催

- ◎ 専決処分事項の報告及び承認について（令和2年度八丈町一般会計補正予算）ほか専決処分1件
- ◎ 八丈町固定資産評価審査委員会委員の選任の同意について
- ◎ 八丈町教育委員会委員の任命の同意について
- ◎ 令和2年度八丈町一般会計補正予算ほか補正予算5件
- ◎ 八丈町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例
- ◎ 中道伊郷名線道路改良工事（坂下工区）請負契約ほか契約2件
- ◎ 平成31年度八丈町水道事業会計決算認定についてほか決算認定2件
- ◎ 八丈町消防委員会委員の選任について
- ◎ 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書

主な会議事項

全員協議会

令和2年8月26日開催

- ◎ 時間外選定療養費について
- ◎ 国の交付金活用支援対策（新型コロナウイルス関係）について
- ◎ 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書について
- ◎ 常任委員会委員等の選任について

議会運営委員会

令和2年8月28日開催

- ◎ 令和2年度第三回八丈町議会定例会について

総務文教委員会

令和2年10月28日開催

経済企業委員会

議会運営委員会

- ◎ 委員長の互選について
- ◎ 副委員長長の互選について

一般質問

9月4日
質問者7人

9月定例会では、町政全般へ7名の議員が13項目にわたる一般質問を行いました。掲載した原稿については、質問議員が作成しています。なお、紙面の都合上、質問内容、回答ともに要約したものととなっておりますのでご了承ください。

質問の録画映像はインターネットでもご覧いただけます。

<http://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/movie/movie304.html>

氏名	質問項目
宮崎陽子	コロナ時代のデジタルを軸にした新たな図書館戦略について 八丈町独自の介護等従事者特別給付金について
山本忠志	行政のデジタル化促進を GIGAスクール構想実現のために教職員のスキルアップを 地方創生を担う移住・定住者への支援を 感染症と自然災害の脅威から町民を守る避難所を
浅沼隆章	新クリーンセンター建設の進捗状況と事業内容について
沖山恵子	災害時、各地区の避難所は避難民を収容しきれぬか 小中学校の修学旅行や島外学習を島内の活動に振り替えてできないか
山下則子	町立八丈病院の人工透析病床を増やせないか
山下巧	新型コロナウイルスの対応について
岩崎由美	住民活動の継続支援を 八丈島における戦時の歴史を記録せよ



宮崎陽子議員

所要時間 18分

コロナ時代のデジタルを軸にした新たな図書館戦略について

新型コロナウイルスの影響により、予測できない変化が日常になるニューノーマルな時代になった。今後は図書館利用者を単なる享受者から情報発信者に転換しながら、未来の図書館に向けてデジタルを軸に、ハイブリッド型地域情報の拠点にすることが大切。全国各地で移住定住促進も推進されているが、図書館が窓口となって対応している地域もあり、最新のデータでは、地方に移住するための条件として、地域の図書館がどれだけ機能して

いるか、ということが最重要ポイントになっているという調査結果がある。

問 新型コロナウイルス感染症対策のテクノロジー活用として、地域資料をデジタルソースに転化し、新たな地域協働として実現できるように、図書館と議会図書室なども整備し、実空間と情報空間が融合した令和時代の普遍的計画を目指して、改善を求めるために図書館整備について見解を問う。

答 教育課長 議会図書室は、議員の皆様と担当事務局におきまして、整備方針を確定いただけたらと考えている。図書館整備については、長期的展望でアナログとデジタルのハイブリッドを目指して自宅でも図書館利用ができるように相互のやり取りを考えたオンライン化を図り電子書籍の導入については、住民の皆様のニーズなどを考えて始めたいと思っている。

問 介護従事者の方々は、要介護高齢者の生活を支えるだけでなく、ご自身やご家族の不安も募る中で、献身的な業務にあたっていただいている。少しでも安心して勤めていただけるように八丈町からの独自の支援について問う。

答 福祉健康課長 町として独自の取り組みは水道料金補助や介護事業所から要望があったマスク、手袋、ゴーグル、防護服、使い捨てエプロンなど物資の支援を行っている。今後町として状況をみながら独自の給付金について支援を検討してまいりたい。



山本 忠志 議員

所要時間 37分

行政のデジタル化促進を

問 町民のデジタル技術力の向上、環境整備、公共サービスの充実に関する町の考えは。

答 企画財政課長 町民のICTリテラシーの向上は、町の大きな課題と認識している。

特に、情報弱者となる恐れのある高齢者を生み出さないために、今後老人クラブなどにおいて「アンケート調査」を実施し、何が必要か、何ができるかを検討する。

また、町の支援事業の給付率向上のために、マイナンバーカードの普及、事業の周知、申請方法の支援に取り組んでいく。

なお、特別定額給付金(一人一律10万円)の支給率は、99.8%という結果であった。

問 本年8月5日「キャッシュレス化推進に関する包括連携協定」が締結されたが、今後、具体的に何がどう変わるのか

答 総務課長 この協定は、島民の生活利便性の向上や商業・観光振興について調査・研究を実施し、現状の課題分析と計画の作成、及びその実施に向けて取り組むためのものである。

町では、業務の効率化を目指し、各種の証明書発行手数料や施設利用料のキャッシュレス化が可能か否か、また島内の事業所(店舗など)のさらなるキャッシュレス化の推進も可能かどうか、その調査研究を始めたところである。

その他の質問

- 「GIGAスクール構想実現のために教員のスキルアップを」
- 「地方創生を担う移住・定住者への支援を」
- 「感染症と自然災害から町民を守る避難所を」



浅沼 隆章 議員

所要時間 23分

新クリーンセンター建設の進捗状況と事業内容について

施設整備の基本方針を踏まえ、コロナ禍で入札が1カ月延期になる中、質問する。

問 コロナの影響で疲弊している島内事業者を救うために少しでも島内へ還元できる事業スキームにすることは、町が率先して考えるべきことである。新クリーンセンター入札の条件に八丈島の島内事業者を参加させることを条件とすることを明記するべきと考えるが、町の回答は。

答 企画財政課長 入札については性能発注方式を採用し、一括発注をして責任の所在を明確にするため指名競争入札により発注する予定となっている。

島内事業者とのJV(※)になると入札参加者が限られてくることが予想されるため、町の契約事務規則にのっとり、できるだけ多くの入札参加者を指名し入札を進めていきたい。

※JVとは複数の異なる企業体が共同で事業を行う組織のこと

問 八丈町の厳しい財政から捻出される新施設整備の概算が38.6～45.4億円となっている。町が実施した事業者アンケート調査に基づき算出されていると思うが、価格の根拠と、その整備費用が適正であることを示せ。

答 住民課長 一般廃棄物の焼却施設の施工実績がある入札参加希望メーカーから見積設計をとり、全社一定の技術水準を有していることを確認したうえで、建設工事費を提出してもらったが、下位と上位では総額23億円程の差異が生じている。基本方針にのっとり最小限の機能を有したシンプルな設備にする予定だ。

問 施設規模（6トン×2炉）を含めた施設見直しや予算見直しは、コロナの影響で入札が延期になり工期が変わったことを含め考えなおすことはあるのか。

答 環境大臣及び都知事あてに、循環型社会形成推進地域計画を提出し、すでに承認されている。予算や工期は9月7日の都市計画審議会での決定後、9月中に指名業者を決定する。見直しについて現在は考えていないが、コロナが多大な影響を及ぼす場合は弾力的な見直しもある。



沖山 恵子 議員

所要時間 28分

災害時、各地区の避難所は避難民を収容しきれるか

台風が大型化し、避難所に避難したくても、コロナ禍の三密回避対策で収容人数が減り、場所がないのではないかと心配である。

問 三密回避をした場合、島内5地区の避難所の収容人数は何人か。

答 総務課長 現在地域防災計画を見直している途中。概算で25%足りないが、いろいろ工夫する。三密回避と収容人数の減少を抑える手段として個別テントを購入し

た。

問 収容人数の把握は避難を考えるうえで重要だ。全体では何人収容予定でその25%足りないのか、元の数は何人か。

答 確定していない。

問 大雨の時、末吉や榎立の住民の避難所になる三原小学校体育館の旧基準の収容人数は何人か

答 480人。

問 ホテルや民宿、個人宅など建物が頑丈な場所を避難所として活用する予定は。

答 島内の4つのホテルを対象に観光協会を通して協定を締結している。

問 町有以外の建物を避難所とした場合、謝礼や、職員によるサポートはあるか

答 町が費用負担して職員も配置する。

小中学校の修学旅行や島外学習を島内での活動に振り替えてできないか

コロナ禍で島外活動が自粛され、修学旅行も延期されていると聞く。島は観光地で、名所・旧跡も宿泊施設も、タクシーや観光バスもある。この豊富な資源を活用し、名所・旧跡を調べ、実際に行き、宿泊施設に泊まることで修学旅行とできないか。今年は島内の資源を活用すると早めに決めた方が、学校も計画を立てやすく、安全で島の宿泊業者の利益にもつながると思う。

問 島外に出る修学旅行に対する教育委員会の見解は。

答 教育長 学校行事は校長を中心に学校で決めるものである。教育委員会としては、修学旅行に関しても学校の考えを支援していきたい。

問 島内の資源を活用しての修学旅行はできないか。

答 教育課長 島内の名所・旧跡は日々の学習の中で学ぶことになっている。修学旅行に行きたい児童・生徒の気持ちを尊重し、島外の旅行実施を支援したい。



山下 則子 議員

所要時間 10分

町立八丈病院の人工透析病床を増やせないか

近年、人工透析を受ける人は増加している。八丈町も例外ではなく町立病院の人工透析病床も満杯になり、新しく透析を受けるには内地に行かなくてはならなくなったと聞いた。

問 現在透析を受けている人数は何名か。

答 病院事務長 23名。

問 1週間の延べ人数は何名か。

答 63名。機器8台中実稼働が7台で、もう1台は不測の事態に備えて開けておかなければならない。

問 内地へ行っているベッド待ちの人数は何名か。

答 3名。

常任委員会など委員改選

10月24日で任期満了となった総務文教委員会、経済企業委員会、議会運営委員会の各委員の新たな顔ぶれが決まり、10月28日に各委員会が開かれ、委員長、副委員長を選任した。任期はいずれも令和4年10月24日までの2年間。

◎ 総務文教委員会

委員長 = 山本忠志 副委員長 = 沖山恵子
委員 = 宮崎陽子、岩崎由美、浅沼憲春、浅沼隆章、小澤一美

◎ 経済企業委員会

委員長 = 菊池良 副委員長 = 山下巧
委員 = 小川一、金川孝幸、奥山幸子、山下則子、廣江才

◎ 議会運営委員会

委員長 = 岩崎由美 副委員長 = 廣江才
委員 = 宮崎陽子、山本忠志、浅沼憲春、浅沼隆章、菊池良

問 これから増えるであろう透析患者の対応について、町ではどのように考えているか。

答 透析室にベッドや機器を増設するスペースはない。それよりも最も大きな課題は内科医師の不足。また、臨床検査技師、看護師、薬剤師も不足している。よって受け入れ枠を拡張することは、物理的・人的要因で困難と考える。当院としては透析患者に限らず、どのような患者でも受け入れに最大の努力をしているが、限られた収容力であるので、町民の皆さまには健康に気をつけ普段からの予防に心がけてもらいたい。

問 町立病院では腎臓内科の診療があるが、腎臓内科の受診者数は何名か。また、空き病室を人工透析病床に使えないか。もちろん予防も大事だが、病気に罹っている人が現実にいるのだから、町も早急に考えるべきだと思うが、いかがか。

答 八丈病院では、月2回約40名の腎臓内科受診がある。その受診者が今後透析に移行していく可能性は、かなり高い。現在空いている病室はなく、むしろリハビリ室を増築している。人口透析に特化した医師を配置し病床を増やすには別棟を建てるしかなく、また医療スタッフが充足していない現状では今ある医療水準を保つことも難しいことをご理解いただきたい。



山下 巧 議員

所要時間 5分

新型コロナウイルスの対応について

新型コロナウイルスの拡散が続いているが、国や東京都は経済の立て直しを図るため大きなリスクを負いながらも自粛解除に向かっていく。八丈島も今後「GoToキャンペーン」など、観光促進するイベントも受け入れることになると思われる。私達島民は感染防止対策をしながらも、感染の覚悟もしておかなければならない。八丈町から新型コロナウイルスの陽性

者が出た場合の対応を問う。

問 町立の隔離病棟の扱いについて。

答 病院事務長 町立八丈病院には隔離スペースである陰圧部屋が2部屋あり、各部屋に1床設置している。

新型コロナウイルス感染、または感染が疑われる患者が入院する場合は、当スペースを利用することになる。

問 人工呼吸器は対応できるのか。

答 人工呼吸器は4台あり、対応できる。

問 東京の病院へ隔離搬送する場合、子供や高齢者には付き添いが必要だが、その費用負担は。

答 都内病院へのヘリ搬送については、通常業務では提携している大学病院に連絡の上、当院において依頼を行う。新型コロナウイルス患者のヘリ搬送については島しょ保健所八丈島出張所が窓口となり搬送先を含む調整を行う。八丈島出張所に確認したところ、ヘリ搬送における子供や高齢者の付き添いは、搭乗医師が医療上必要と認めた場合、機長に相談の上で搭乗できるとのことだ。この際ヘリ搬送における同乗者に対する費用は東京都負担になる。

問 陽性患者が搬送を拒否した場合は

答 陽性患者に対しては保健所が法的に入院勧告を出す。更には、当院での受け入れができないことからヘリ搬送を行うことになるので、患者自身が搬送を拒否することはできない。



岩崎由美 議員

所要時間 14分

住民活動の継続支援を

問 新型コロナウイルスの流行に伴い、八丈島においても様々な民間団体が活動を自粛せ

ざるを得ない状況となっている。今後の継続的な活動のためにも、それぞれの団体の状況に応じてきめ細やかな対応が可能か伺いたい。

答 教育課長 文化協会から要望があったので例にすると、現行の運用で対応ができるものもあり、運用の仕方を伝え理解してもらった。補助金の運用については補助事業審査委員会があるので、各団体から連絡してもらえば、どのような支援ができるか検討して個別に対応する。

八丈島における戦時の歴史を記録せよ

戦後75年である今年も、8月15日を中心に戦争の話題がメディア等で紹介された。現在、戦争の歴史を伝える上での大きな課題は、戦争を直接経験した第一世代の人々が減少していくこと。戦時下の八丈島は、多くの島民が疎開していたこと、直接的な戦地にならなかったことなどから、町として戦争当時の状況を積極的に伝えようという動きはない。

問 町が所有する戦時下の資料は、どの程度現存しているか。

答 八丈島の戦史について、平成29年に企画展示を行った。そこでは明治時代以降の戦争に関する年表、史跡の位置図、解説を行った。また戦時下で使われた発電機などを資料館で保有している。

問 文化庁の補助事業などを活用し、最新の技術で記録するべきと考えるがいかがか。

答 文化庁の補助事業は町が観光拠点の整備計画を策定した上で、民間団体と協議会を作り官民連携で申請していくものですぐには対応が難しい。

問 すでに民間では戦跡を保存活用しようという団体がある。官民連携のもと、今すぐにもやらなければならないと考えるが、いかがか。

答 史跡には白地（地番不明地）や民有地が多く全てについて記録できるかどうかは難しいが、歴史民俗資料館になんらかの形で残していきたいと考える。

質疑

コロナ関連 集中審議

◎ 万全な感染防止策で集客を



金川孝幸 議員 全員協議会では特に1億円が計上されている観光復興集客事業など国の交付金を活用した支援対策が説明された。「Go Toキャンペーン」でも東京

都が解除されるが、島しょ部での感染発生によって状況が変わりつつある。八丈町は自信をもって集客アピールができるのか。

産業観光課長 こちらの事業に関しては令和4年3月31日まで延長が可能。いつ開始するのは東京都の対応を勘案して検討したい。

金川孝幸 議員 実施するには完全な感染防止対策が必要。町民に対しても感染防止対策を要請しているわけだから、手本となるような対策を町施設ではやるべき。町の施設からは絶対クラスターを発生させないという強い意志をもって徹底すべきだと考える。島だからこそできることもあるが、現在は病院におけるソーシャルディスタンスや温泉施設の衛生管理も不十分と思われる。

総務課長 庁舎に関しては、玄関に手指消毒のアルコール、職員は全員マスク着用。また、関係施設もこのような対策は徹底しているが、現場を確認の上、改善したい。

◎ 社会的PCR検査の検討は

浅沼隆章 議員 町民も来島者も安心するためには、コロナウイルス感染症の検査が必要ではないか。医療的検査と社会的検査があるが、社会的検査はできるだけ多くの無症状感染者を把握して保護すること。このことをすることによって安全であることが確認できるので、観光客も受け入れやすくなる。社会的検査をたくさん行うことで、コロナ禍での観光対策が進むと思われるが、町の今後の感染症対策は。

総務課長 今のところ、症状があれば病院で抗原検査、PCR検査（検体採取）を行う。濃厚接触者については、無症状であれば保健所

で必要に応じてPCR検査を行っている。

浅沼隆章 議員 仕事や病院で上京した方が、希望して行う任意検査は3~5万円となるが、補助を行う考えはないか。

総務課長 現在は補助は考えていない。

副町長 島しょ部で注目しているのが、おがさわら丸での検査だが、試行的である。現在、検体を出して、出航前に結果がわかるようになった。しかし、先週までは9割だった検査率が6割に落ちた。こういったことも見据えながら他の島しょ部も含めて、船の航路では検討できるかもしれない。

八丈島の場合、航空路については導入が難しいのではないかと。東京都とはどういうやり方があるかを相談している。東京に行って自分で受けるのは非常に限定的な話なので、町として推奨することはできない。島内における検査体制を確立できるか模索をしている。

浅沼隆章 議員 現在、全自動で850万円ほどの検査機があるが、導入する考えはあるか。

病院事務長 PCR検査は遺伝子操作を行う特殊な検査なので、専用の検査室や熟練の医療スタッフが必要になる。今の抗原検査は35分で結果が出る。離島のような小自治体の病院でのPCR検査は非常に難しい。実際にこれが整備された段階ではもうワクチンが開発されてしまって、施設は使わないということになるかもしれない。

◎ 観光事業者の支援を

廣江 才 議員 観光業界の方々にもある程度補



助を出し、観光客を入れるのを見合わせたらどうか。八丈の産業全体をダメにするのではなく、落ち込んでいる部分に出して、様子を見ながらという方法もあるのではないかと。

町長 「Go Toキャンペーン」が始まって東京都はまだ感染状況が落ち着いていないと考えられる。状況を見ながら判断したい。ホテルも努力しているので感染対策の面では、先に支援していきたい。開始時期については

皆さんと相談しながら決めていきたい。

● 水道料金免除の補助額は

山下 巧 議員 水道料免除はだいたいどのくらいの金額になるのか

企業課長 6月請求分から始めているが、3カ月平均すると補助分については月に1900万円ほど。それ以外に公共施設が、200～300万円が別に計上されている。

その他の質疑

● 古紙リサイクルは続ける？

沖山 恵子 議員 段ボールの処理委託料が550万円上がったということだが、大きな金額である。お金をかけても今後リサイクル資源として処理していくのか。

住民課長 古紙価格が暴落していることは把握している。しかし資源ゴミについては、可能な限りリサイクルするという町の理念に従い、最大限努力したい。

● 発泡トレイ回収の実態は

廣江 才 議員 発泡トレイ選別委託料について業者との話し合いはどうなっているのか

住民課長 白色発泡トレイについては3月から資源回収ゴミとなった。クリーンセンターに持ち込まれる発泡トレイについては、現受託会社が処理している。ただし集積所で集める白色発泡トレイについては町職員が処理をしている。約6カ月処理をしたので、全体量を把握でき、それに基づきシルバー人材センターに見積りを依頼し委託する予定。

● 学校のタブレットいつから

山下 則子 議員 児童生徒に配布するタブレットはキーボード付きか。実際いつから児童生徒たちが使えるのか

教育課長 さらに機能が追加され、LTE(普通のスマホの電話の電波を使って)の機種に変更した。9月中旬に納品してもらい、それ以降早急に使えるようにしたい。

● 通信費はいくらに

金川 孝幸 議員 タブレットの通信費用は含まれているのか。年間どのくらいの費用がかかるのか。

教育課長 通信費用の契約は別だが、予算は

確保してあるので、すぐ使える。御蔵島で行っていたモデル的事業では一人2500円だった。今回は島しょ町村での共同購入のため、その3分の1程度で年間1000万円前後の通信費を見込んでいる。

● アリ対策 全島展開は

岩崎 由美 議員 今年はアジジロヒラフシアリ対策について、専門家の調査が延期されたと聞いたが、調査状況と今後の見通しは。また現在は檜立地域のみの実験だが、他の地域でも実施する予定はないか。

住民課長 コロナによって時期は遅れたが、研究者が7月に来島し現状を観察した上で、檜立地域で説明会を開き、実証実験を行っている。8月から開始して昨日で1週間、檜立地域の約270世帯の360カ所に各20個の薬を設置して実証実験を行った。その後、モニタリングポイントとして、20カ所の結果をもって対策を練る。研究者によるとアリの活動が激しいのは初夏(6月から8月)とのこと。場合によっては再来年までかけて実証実験を行い、有効成分を検討していく。他地域については未定である。

議員定数 議論再開！

令和3年6月議会で条例改正

人口も減少し、前回選挙が無投票だったこともあり、議員定数の削減について議員間での議論が再開した。八丈町の議員定数が現在の14名になったのは、平成18年(2006年)。現在の人口は、当時より約1400人減少している。全国的に7000人規模の町村においては、定数12名が最も多い。

一方、「核のゴミ」で揺れている北海道神恵内村のように人口800人強に対し村議員8名のような自治体もある。委員会など職務の兼ね合いも含め考えていかなければならない。

議会は住民自治の基本。様々な角度から検討を重ね、令和3年6月議会で定数に関する条例改正案を上程する予定である。

新型コロナウイルス関連で 国へ意見書 町へ要望書提出

9月7日の町議会定例会で、全議員が賛成者となった「新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書」を浅沼憲春議員が提出し、議決した。意見書の提出先は衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣、内閣官房長官、経済再生担当大臣、まち・ひと・しごと創生担当大臣。

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書

新型コロナウイルス感染症の拡大は、甚大な経済的・社会的影響をもたらしており、国民生活への不安が続いている中で、地方税・地方交付税等の一般財源の激減が避けがたくなっている。

地方自治体は、福祉・医療、教育・子育て、防災・減災、地方創生、地域経済活性化、雇用対策など喫緊の財政需要への対応をはじめ、長期化する感染症対策にも迫られ、今後の地方財政は、かつてない厳しい状況になることが予想される。

よって、国においては、令和3年度地方財政対策及び地方税制改正に向け、下記事項を確実に実現されるよう、強く要望する。

記

1 地方の安定的な財政運営に必要な地方税、地方交付税等の一般財源総額を確保・充実すること。その際、臨時財政対策債が累積することのないよう、発行額の縮減に努めるとともに、償還財源を確保すること。

2 地方交付税については、引き続き財源保障機能と財源調整機能が適切に発揮できるよう、総額を確保すること。

3 令和2年度の地方税収が大幅に減少することが予想されることから、万全の減収補填措置を講じるとともに、減収補填債の対象となる税目についても、地方消費税を含め弾力的に対応すること。

4 税源の偏在性が小さく、税収が安定的な地方税体系の構築に努めるとともに、国税・地方税の政策税制については、積極的な整理合理化を図り、新設・拡充・継続に当たっては、有効性・緊急性等を厳格に判断すること。

5 特に、固定資産税は、市町村の極めて重要な基幹税であり、制度の根幹を揺るがす見直しは、家屋・償却資産を含め、断じて行わないこと。また、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策として講じられた特例措置は、本来国庫補助金等により対応すべきものであり、今回限りの措置として、期限の到来をもって確実に終了すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和2年9月7日

陽性者確認を受け 議会が町へ緊急要望

9月8日、八丈町において初めての新型コロナウイルス感染症の陽性者が確認されました。その後14日までに感染者は7人となりました。この事態を受け、町議会は9月24日、各議員の共通理解のもと、山下町長に要望書を提出いたしました。

新型コロナウイルス感染にともなう 要望について

9月8日、八丈町においても、新型コロナウイルス感染症の陽性者が確認されました。その後、日を追うごとに陽性者が確認され、住民の間に感染拡大への不安が広がっております。

八丈町はこの事態に素早く対応し、ホームページや

防災無線を通して住民への周知を行ってきました。しかし、感染に関する情報が乏しく、さらに不安が増幅しかねない状況になっています。

医療体制や検査体制が脆弱な八丈町においては、感染拡大が大きな課題となります。濃厚接触者と考えられる方々に対する検査や感染者に対する対応など、今後も適切な対策を実施されますよう、以下に要望いたします。

記

1. 東京消防庁や自衛隊による搬送体制や搬送先の医療機関の確保に万全を期すること。

2. 八丈町における軽症者等に対する宿泊療養施設を確保しておくこと。

3. 町、都、支庁、保健所との連絡体制を強化すること。

4. PCR検査や抗原検査の実施希望者に対して、条件によっては認めるような仕組みを検討すること。

5. 島内で感染者が発生した場合には、医療機関、高齢者施設、障がい者施設などの職員や利用者に対して、濃厚接触の有無にかかわらず抗原検査やPCR検査を実施可能にすること。

島内見学レポート

地域活動支援センター「よけごん」「大竜ファーム」 「八丈島一般廃棄物管理型最終処分場」

日時 令和2年2月12日

参加議員 宮崎陽子・浅沼隆章・山本忠志・沖山恵子・山下 巧・岩崎由美・金川孝幸・廣江 才

地域活動支援センター「よけごん」

障がい者の新たな拠り所に

地域活動支援センター「よけごん」の特色は障がいの有無にかかわらず、居場所を必要とする人を受け入れている点であろう。行政の支援が届きにくい人の拠り所として意味があると思う。週3回（合計14時間）開所しており、1日あたりの平均通所人数は12名程度。「よけごん」を必要とされる方についてはできる限り受け入れようという考えだ。ただ現状を見る限り、予算不足によるスタッフの人員費確保、賃貸物件の手狭なスペースなど課題もある。まだ設立が浅い面もあるが、行政からのより一層の支援があるなら、充実した支援センターとしての役割が果たせるように思う。



昼食前のひととき

しいたけ栽培「大竜ファーム」

島外出荷の運賃が課題

中之郷の「大竜ファーム」は国境離島特措法の雇用拡充事業を活用して、菌床ブロックを利用した椎茸の栽培を行っている。現在、社員1名、パート・アルバイトが6名在籍しているとのこと。菌床ブロック栽培は1ブロック当たり600グラム、4日～7日で収穫できる。ただし、よりよい製品を生産するためには菌床ブロックの手入れ、芽欠き作業が欠かせない。現在のところ売り上げは順調に伸びているが、島外に出荷するためにどうしても運賃の弊害がある。もちろん、運賃問題は島の産業にはすべてが絡んでいる。その点はこれからの課題だ。

施設での栽培であるため、天候に左右されな

い利点もあるが、使用済みの菌床ブロックの処理という作業がある。廃材は農家や養鶏場など循環型農業の一環として利用する展開を考えているという。まだ黒字化の域には達していないが、現在併設建築中のバーベキューハウスでの売り上げにより安定化を図るといふ。ただ、補助金に依存している現状から脱却するには、まだしばらく時間がかかる気がする。



施設内には菌床ブロックがならぶ

一般廃棄物最終処分場

施設の状況 包み隠さず報告を

水海山の最終処分場には何度となく訪れている。主に遮水シートの説明だが、確かに住民の目もあるし懸念される問題である。

ただ、その管理も従来と同様に危機感を持って行われているようであるから、現状では安心できる。現在の処理実績から、今後30～40年間の供用が可能と見込まれるため、遮水シートの問題はこれからである。今後も緊張感を持った対応を持続してもらえれば、住民も納得できるのではないだろうか。事業主体の一部事務組合には、住民に包み隠さず施設の現状を報告できる体制を保つことを祈る思いである。（廣江才）



埋め立て地を見学

若者インタビュー

八丈高校2年生 吉川 亮さん

将来の夢や島への思いについて、ご本人が書いた原稿を元に編集しました。



すべての産業の基礎は、第1次産業だと思う。食材がなければ料理ができない。今は外国からの輸入で賄われているが、世界の人口は増えており、その人達が生きるための食料が必要になる。この勢いでいけば外国も輸出できるほど余剰な食料は無くなるだろう。

当然日本も輸入がストップし、今までの量は期待できない。ただでさえ食料不足の日本は簡単に飢餓状態になってしまう。そんな状況を打破できる小さな力になりたい。そういう思いで僕は農家を目指し八高の園芸科で学んでいる。いずれ祖父の残してくれた埼玉の土地で農業をしたい。

島には狭い地域に山も海もある。贅沢な環境だ。皆優しく、近所付き合いも楽にできる。でもコンビニもゲーセンも映画館もない。内地と比べたら、非常に不便だ。だから、都市にはない魅力で戦うしかないと思う。

実際、観光産業としてはそれで成功している。しかし、「遊びには行きたいけれど、内地の利便性を捨ててまで住みたい」とは考えない人も多いのではないかな。縁がない限りは、内地からわざわざ移り住むメリットはない。観光から移住へもっていかけてはいない…僕はそう考える。

(沖山恵子)

知恵袋インタビュー

元小学校校長 菊池 浄さん

長きにわたり八丈島で教員生活を送った浄先生の思い出を伺いました。先生は、今も時折「むかしの富次朗」でピアノを弾いていらっしゃいます。

大学卒業後に赴任したのは大賀郷小学校。ちょっと東京に出て島に戻った。末吉小学校。最初の数年は麻雀ばかり。でも変わった人の影響を受けて、勉強するようになった。研修費用を捻出するために校庭の口ベを売って親に怒られたなあ。

教師の仕事は創造的想像力が支えだ。プログラムのない授業を試みた。たとえば、「昔しらべ」。墓石に彫られている先祖の命日を調べて年表を作ると、ある時期に亡くなった人が多い。古文書を見ると大きな病が流行ったことが分かったりする。カップラーメンが話題になった時には、石臼を引きまくり、うどんができた時の感想は買った方が楽だということになったけどね(笑)。味噌も作った。



た。エベズがワインになったりした。

檜立小学校で校長をしていた時にはクジャクを養った。高台から飛ばしてみたかったんだ。

僕は子どもの答案にバツをつけなくなり、号令もかけなくなった。バツの先端は子どもの心に刺さると思っていただけ。子どもから学んだことだ。本当にいい教員時代だったと思う。

(岩崎由美)

[あしがき]

今年の夏は暑い… そう感じた方は多かったと思います。八丈島は30℃以上にならないというのは、かつての話。島の年平均気温は、この100年間で0.8℃上昇しているそうです。また海はどうでしょうか。かつてコモノハ(海藻)が揺らめいていた底土の海には、現在美しいサンゴが広がっています。しかしこのサンゴが9月

の初めに真っ白に変わっていました。「白化」です。サンゴと共生している褐虫藻が、高水温が続いたために失われる状態で、これが長期に渡るとサンゴは死んでしまいます。このように各地で進む温暖化は、すでに世界の環境を大きく変えています。それに対して、今、私たちは何ができるのでしょうか…。(岩崎由美)

発行人 八丈町議会議長 奥山 幸子

編集 議会だより編集委員会 委員長 岩崎由美 委員 宮崎陽子 山下則子 沖山恵子

〒100-1498 東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2

tel 04996-2-2788 fax 04996-2-4437 メール gikai@town.hachijo.tokyo.jp

